

平成28年 観光動態調査（1月～12月）

柳川市観光課

1. 概要

平成 28 年（1 月～12 月）の柳川市への観光客入込客数は、平成 27 年の約 136 万 7 千人から約 5 万 1 千人減少し、約 131 万 6 千人だった。

例年 3 月と 4 月がピークだが、4 月 14 日から発生した「熊本地震」の影響を受け、4 月は大幅に落ち込んだ。国では「九州ふっこう割」が始まり、柳川市でも柳川から九州の元気を発信するプロモーション事業を実施した。5 月と 6 月も前年を下回ったが、夏休みが始まる 7 月から観光客が訪れるようになったと思われる。特に、7 月下旬に満開となった「柳川ひまわり園」の人出は過去最高となり、外国人観光客も多く見受けられた。

観光消費額は、入込客数は落ち込んだものの、平成 27 年の約 60 億 6 千万円から約 61 億 2 千万円と微増であった。そのため、1 人当たりの消費額は、平成 27 年の約 4,430 円から約 4,650 円と増加した。要因としては、食事やお土産などの消費が増加したことによると考えられる。

宿泊客数は、平成 27 年の約 4 万 7 千人から約 5 万 2 千人に増加。これは、柳川市が宿泊助成を行った 1 月から 3 月までと、夏休みの 8 月、気候が良い 10 月、11 月に宿泊客が伸びた。また、6 月 15 日から開業した「ホテルニューガイア柳川」も寄与していると思われる。この宿泊客の増加が、観光消費額の増加を後押ししている。

観光客の交通手段は、乗用車利用者が約 56%、西鉄電車利用者が約 27%、大型バス利用者が約 17%の割合となっている。割合だけを見ると、乗用車利用者が全体の半数以上で平成 27 年と同率であり、西鉄電車利用者は微増。個人観光客が多く占めている状況は変わらない。大型バス利用者は、熊本地震やバス料金が上がっている影響から苦戦したとみられ、柳川市で独自に 1 月から 3 月までにバスツアー助成事業を行ったが、平成 27 年と比べて約 2 万 7 千人減少する結果となった。

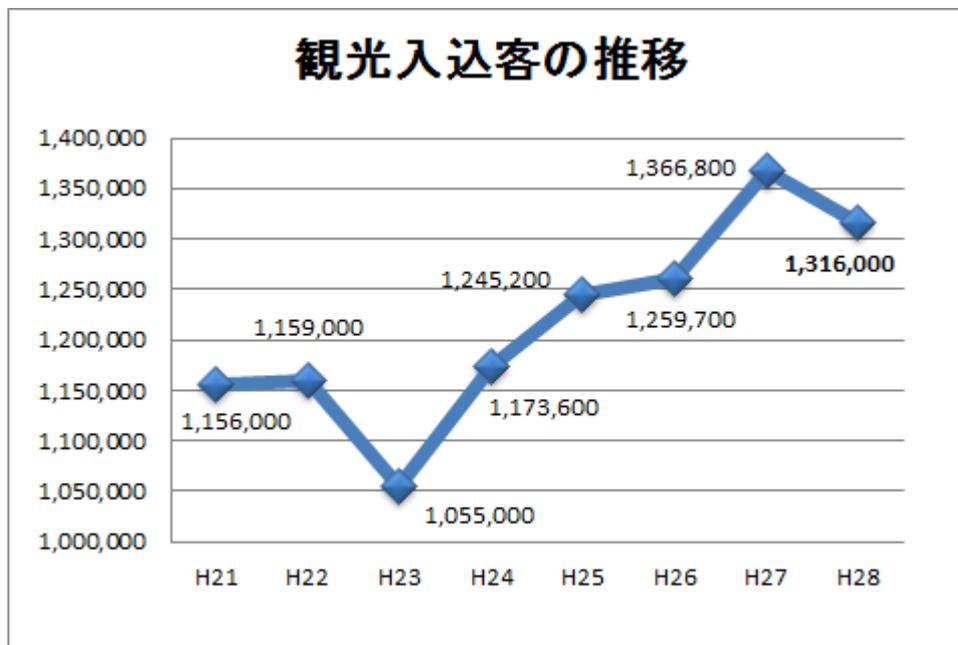
川下りの利用客は、平成 27 年の約 38 万 8 千人から約 34 万人となり、約 4 万 8 千人の減少。熊本地震の影響などにより、4 月から夏まで客足が落ち込んだことが減少につながったとみられる。

外国人観光客は、過去最高を記録した平成 27 年の約 14 万 9 千人と比べて約 2 万 5 千人減の約 12 万 4 千人となった。客足が遠のいたのは、熊本地震の影響によるものと思われるが、10 万人台を維持することができた。7 月から戻りはじめた印象で、12 月は平成 27 年の人数を上回った。

2. 観光入込客数

(1) 観光入込客の推移

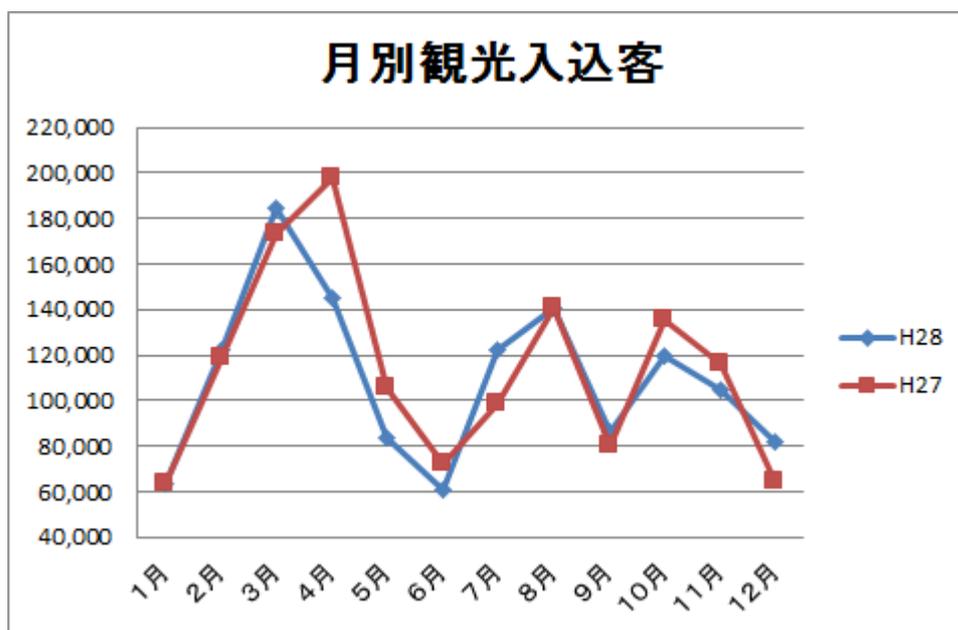
観光客の入込客数は、約131万6千人で、平成27年と比較すると約5万1千人の減少となっている。主な要因は、熊本地震の影響により客足が遠のいたことが考えられる。



(2) 月別観光入込客数

入込客数を月別にみると、春先の3月がピークとなった。「柳川雛祭り さげもんめぐり」と琴奨菊関の優勝パレードが寄与していると想定される。例年4月がピークだが、熊本地震の影響を受けた。5、6月も影響を引きずっている印象で、7月から戻っているように見える。7月は「柳川ひまわり園」の入園者が過去最高だったことで、急激に伸びたと思われる。

傾向的には、4月を除いて例年と同じような推移が見られる。

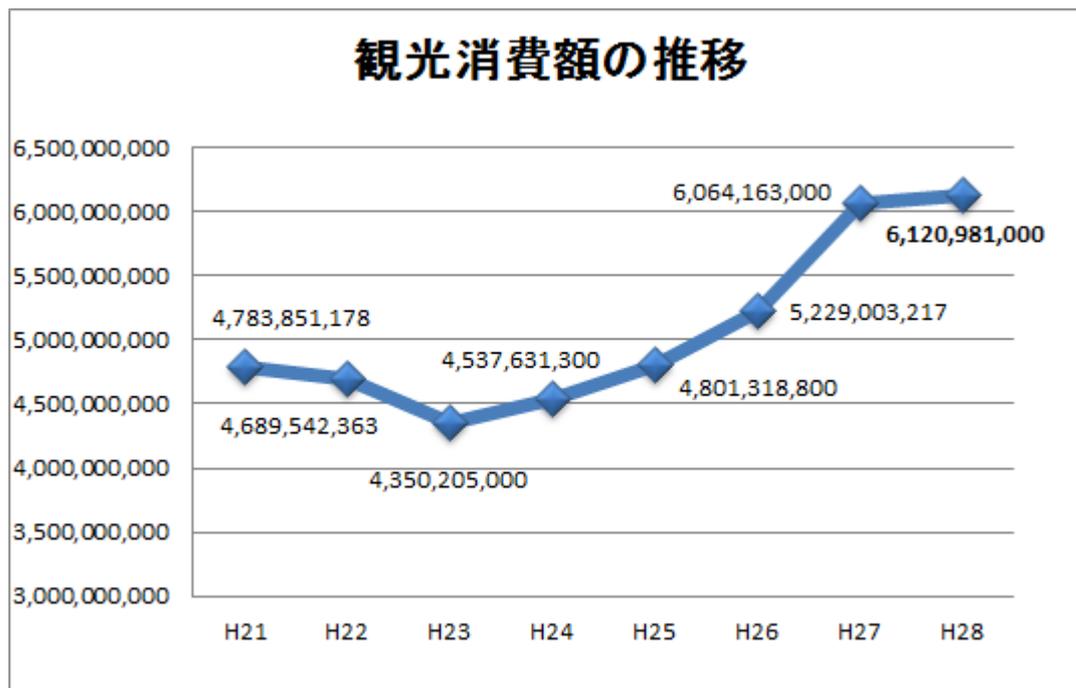


3. 観光消費額

(1) 観光消費額の推移

推計消費額は、入込客数が減少したものの約 61 億 2 千万円で、平成 27 年と比較して約 5 千 7 百万円の増加であった。そのため、1 人当たりの消費額は約 4,650 円で、平成 27 年と比較して約 220 円増加した。これは、宿泊客や飲食代などの増加によるものと考えられる。

最も高い消費額は、食事代で約 25 億 8 千万円。次に、お土産代の約 23 億 1 千万円。また、宿泊が約 6 億 2 千万円、川下りが約 4 億 6 千万円と推計される。

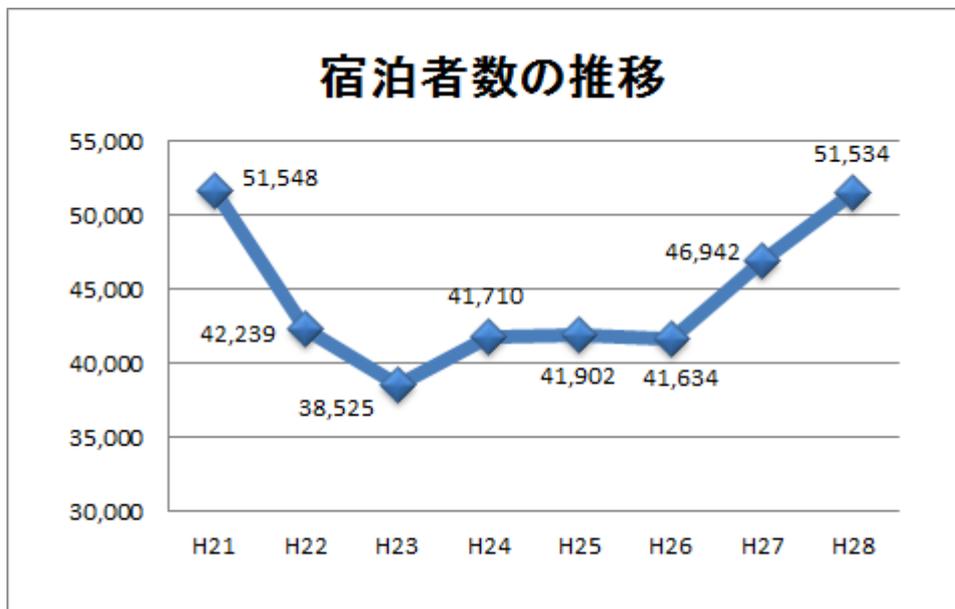


4. 宿泊客数

(1) 宿泊客数の推移

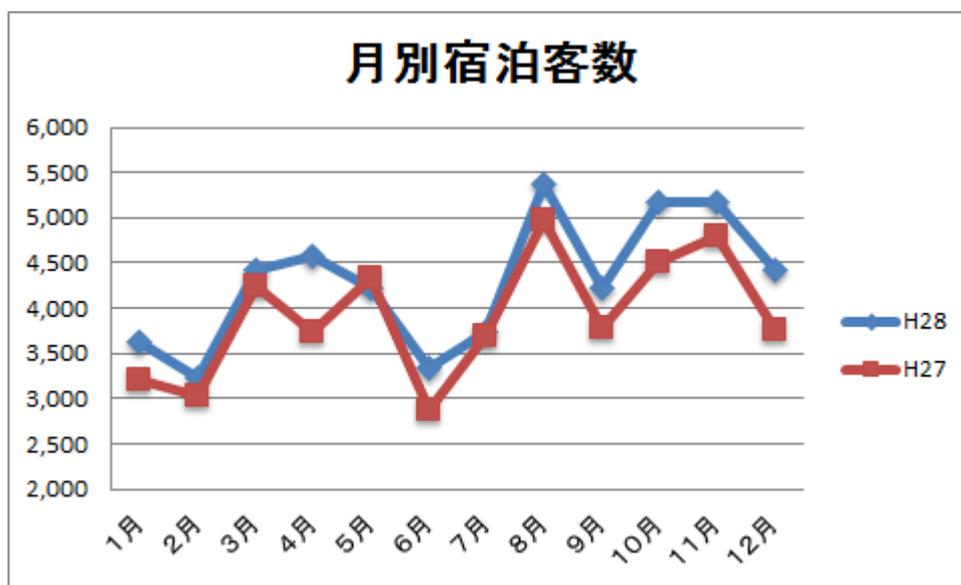
宿泊客は、約5万2千人であり、平成27年と比べて約5千人増加している。6月15日から開業した「ホテルニューガイア柳川」も寄与していると思われる。

また、観光入込客数に占める宿泊者数の割合は、約4%であり、日帰り・通過型の観光客が大半を占めている状況は変わっていない。



(2) 宿泊客数と観光入込客（月別）

平成28年の月別宿泊客数では、8月がピークで、次に10、11月となっている。1月から3月まで平成27年度の宿泊助成を行っており、前年比で約10%の伸びを示した。

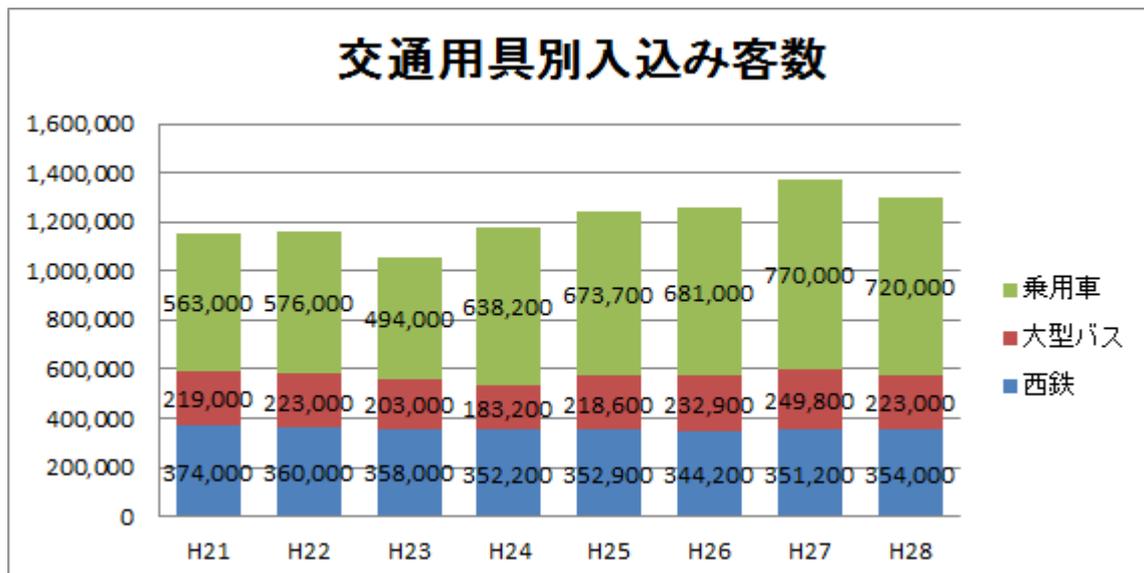


5. 個別の交通機関

(1) 交通用具別入込客数の推移

交通手段（大型バス・西鉄電車・乗用車）別に観光入込客数を推定すると、乗用車利用者が全体の56%を占め、西鉄電車利用者が約27%、大型バス利用者が約17%となっている。

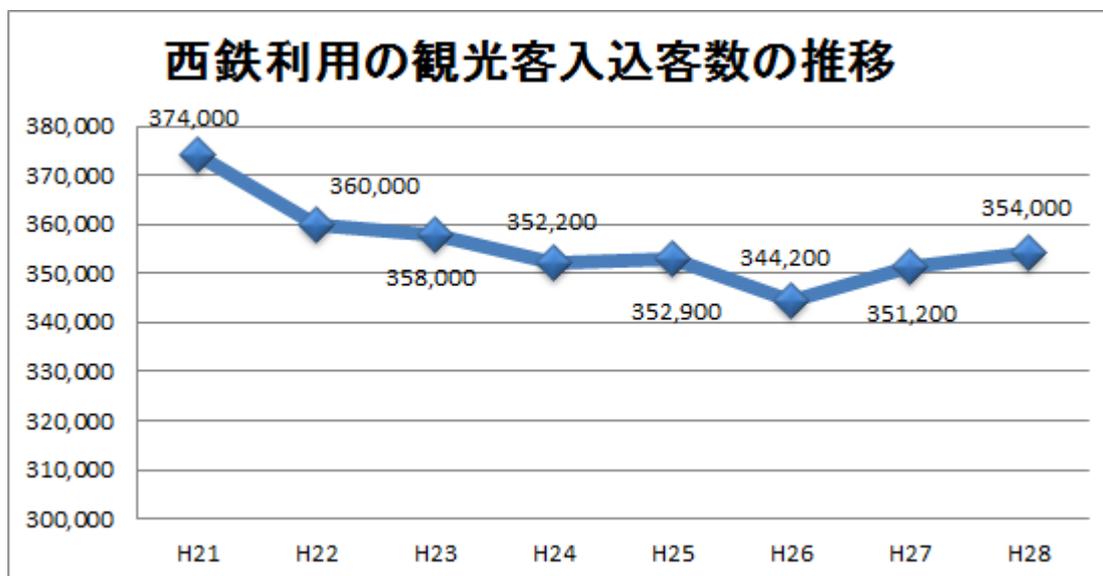
このことから、乗用車や西鉄電車で移動する小グループ・家族で旅行する個人型の観光が多くを占めていることが分かる。

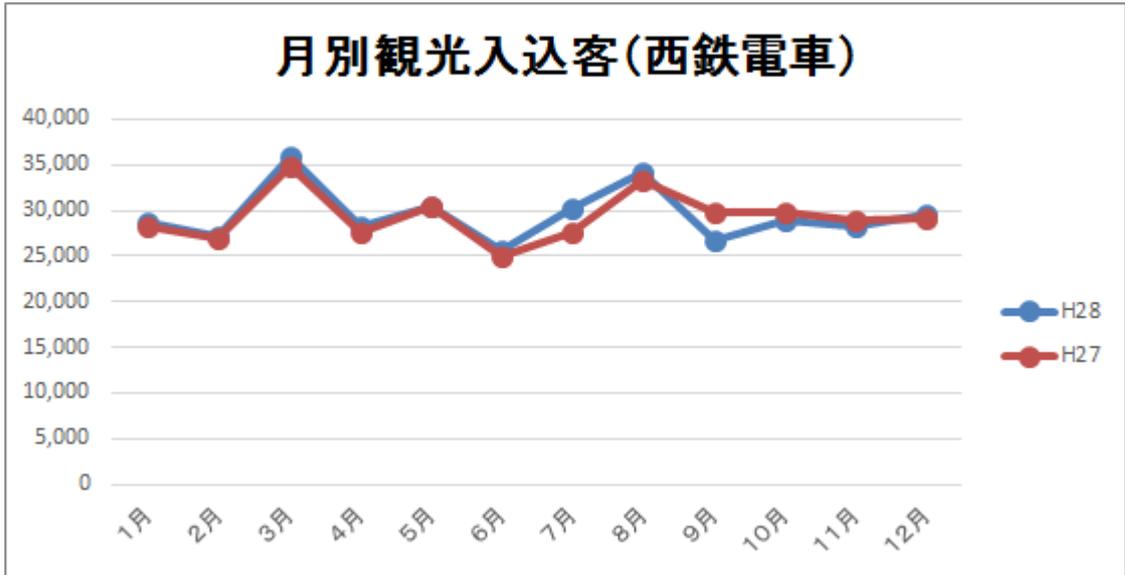


(2) 西鉄利用者（柳川駅）

西鉄柳川駅定期以外の乗降客数は、約195万8千人であり、平成27年と比べて約1万5千人の増加となっている。その中で、西鉄を利用する観光客入込みは、35万4千人と推計される。なかでも、個人や小グループでの外国人観光客が増えていると推測される。

西鉄利用の観光客の内、「柳川特盛きっぷ」といった企画きっぷを利用した観光客も見られる。こういった旅行商品は、台湾などで販売されていることから、購入した外国人観光客が訪れていると思われる。

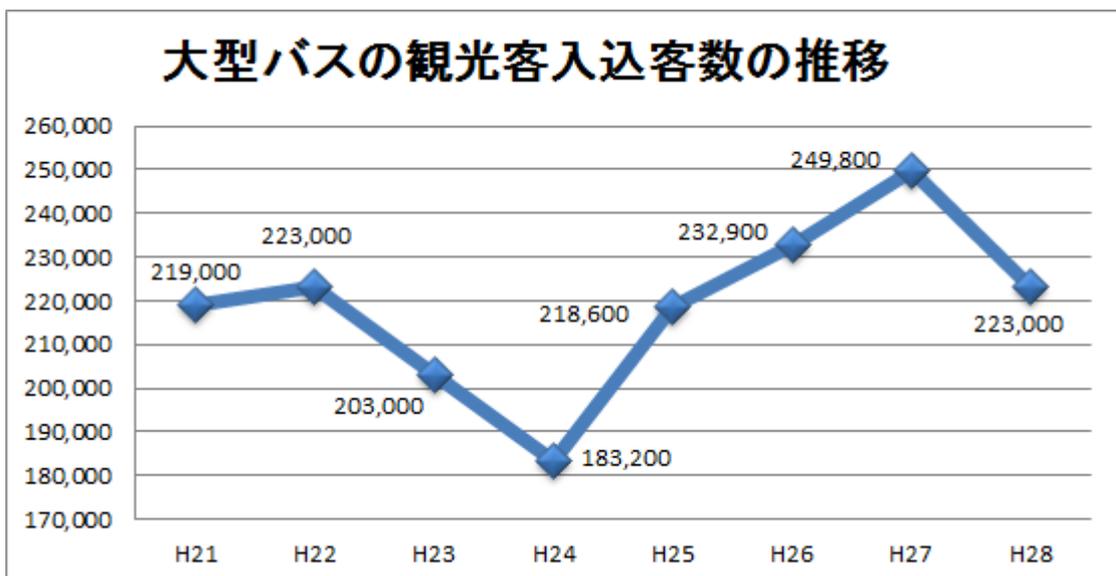


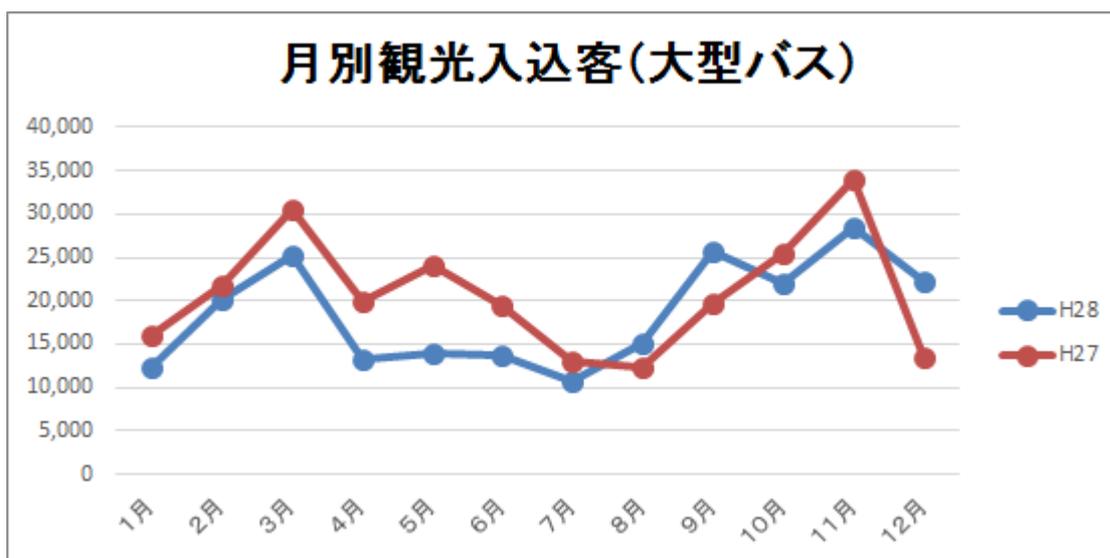


(3) 大型バス

大型バスの台数は、約 22 万 3 千台で、平成 27 年に比べて約 2 万 7 千台減少した。平成 27 年と比較して約 500 台減少している。これは、熊本地震によるバスツアーの減少、バス料金の改定で料金が上がり苦戦したことが影響していると思われる。舟会社の駐車場を利用した川下り客も相当数いたと見込まれる。

なお、8、9、12 月は、前年を上回る数値となった。

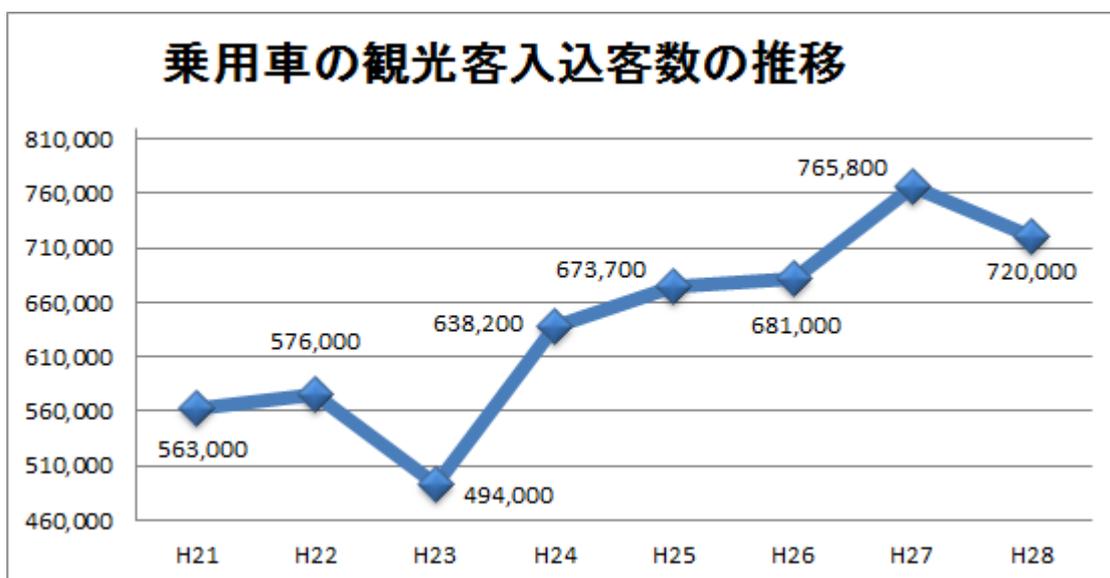


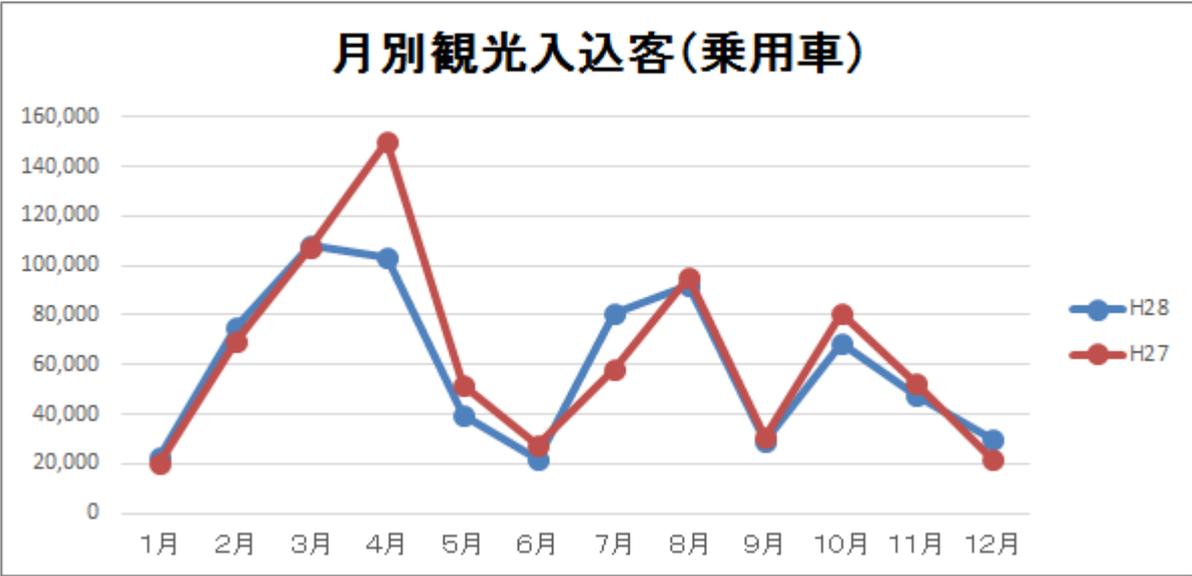


(4) 乗用車

イベント駐車場利用を除いた市営駐車場などの主要駐車場の駐車状況をみると、約 1 万 7 千台であり、平成 27 年と比較して約 1 千 600 台の増加だった。

マイクロバスを含めた乗用車を利用する観光入込客は、約 72 万人で、平成 27 年と比べて 4 万 8 千人の減少となった。要因としては、大型バスと同様、熊本地震の影響が考えられる。

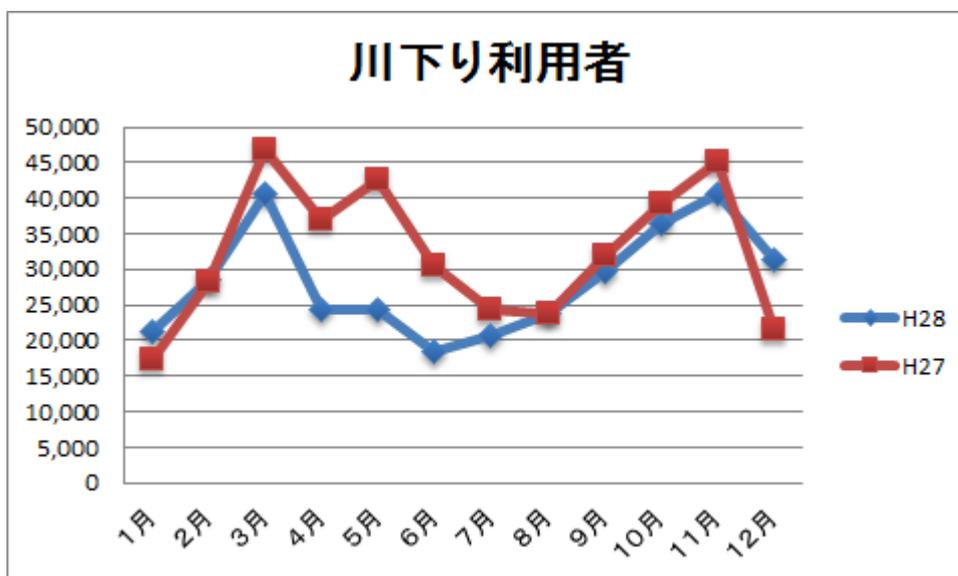
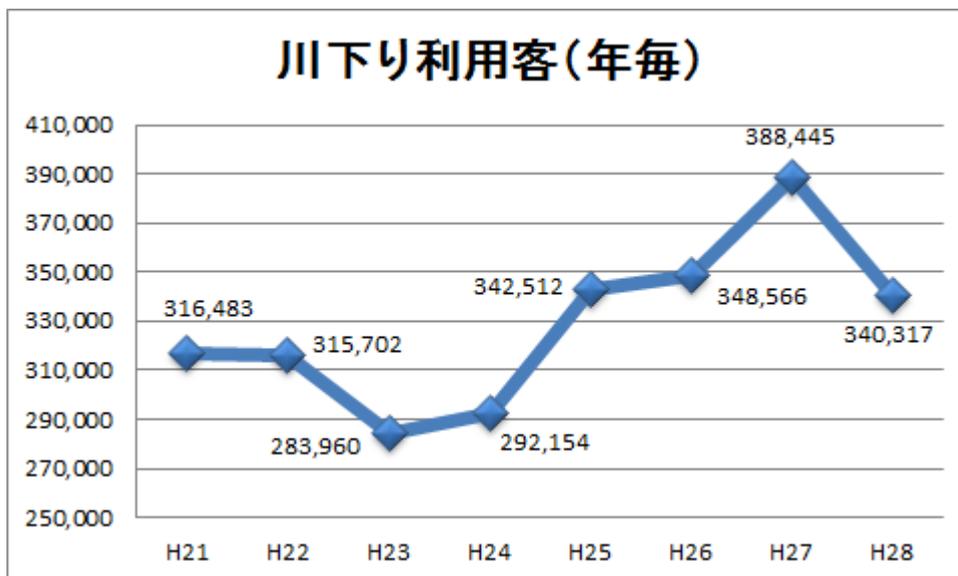




6. 主な観光施設の入込客数

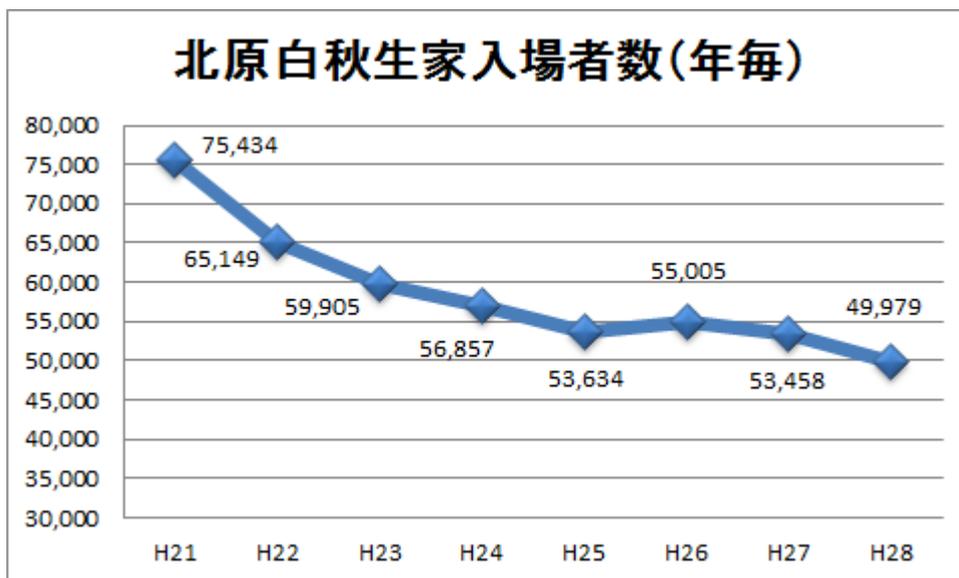
(1) 川下り

川下り利用者については、約34万人で、平成27年と比べると約4万8千人の減少となった。4月から7月まで川下り利用者が落ち込んでいることから、熊本地震の影響による国内外の観光客の減少が要因と思われる。



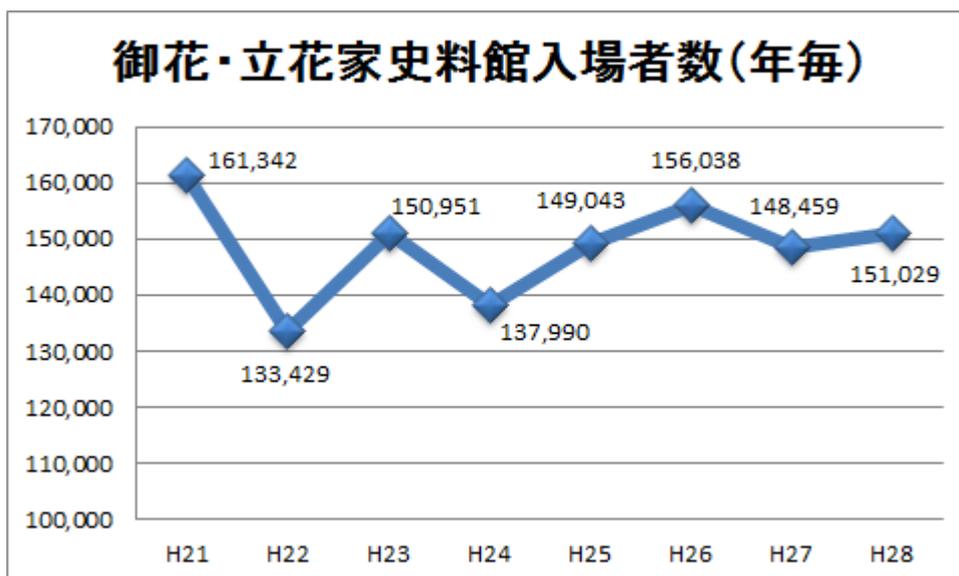
(2) 北原白秋生家

北原白秋生家の入場者数は、5万人を割り込む結果となった。平成26年は増加を示したが、全体としてはいぜんとして減少傾向が続いている。



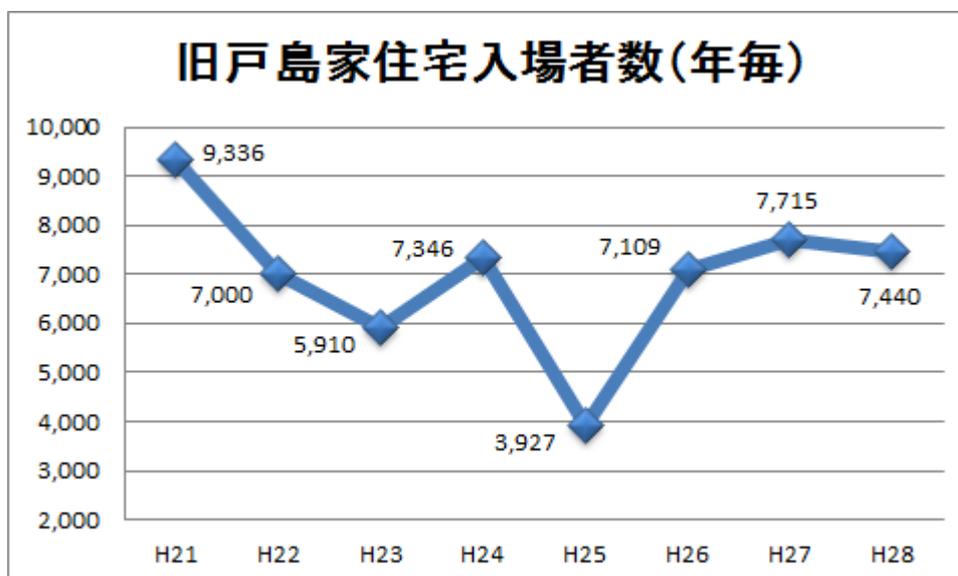
(3) 御花・立花家史料館

立花家史料館の入場者数は、約15万1千人と、平成27年と比べて約2千500人の増加となった。平成27年はレストラン「対月館」の改修により減少していたと思われ、熊本地震の影響を受けながらも15万人台に回復している。



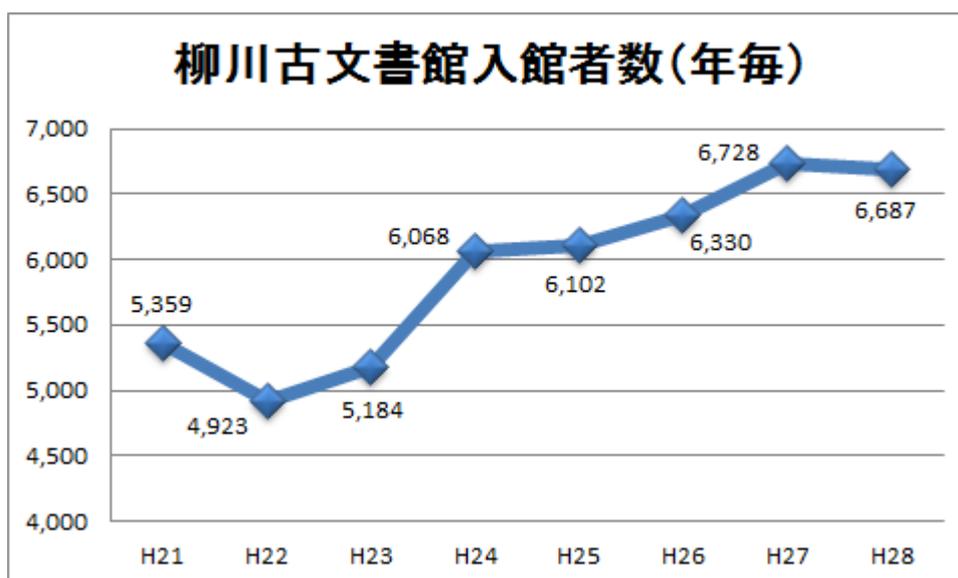
(4) 旧戸島家住宅

旧戸島家住宅は、柳川地方の武家住宅の典型例として、昭和 32（1957）年に建物と庭園がそれぞれ福岡県の文化財に指定。また、昭和 53（1978）年には、庭園が国の名勝にしてされている。旧戸島家住宅の入場者数は約 7,400 人で、平成 27 年から約 270 人減少した。



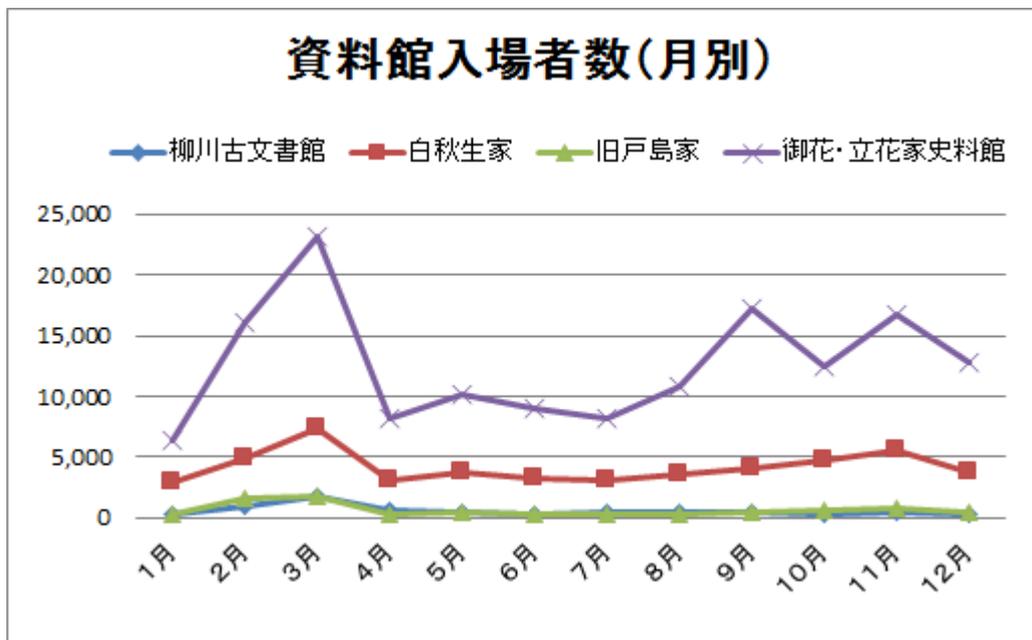
(5) 柳川古文書館

柳川古文書館は、設置は福岡県・福岡県教育委員会で、運営管理を柳川市・柳川市教育委員会で行っている。収蔵史料で、鷹尾神社大宮司家文書などは国指定重要文化財に指定。その柳川古文書館の入館者数は約 6,700 人。平成 27 年と比べて微減となった。



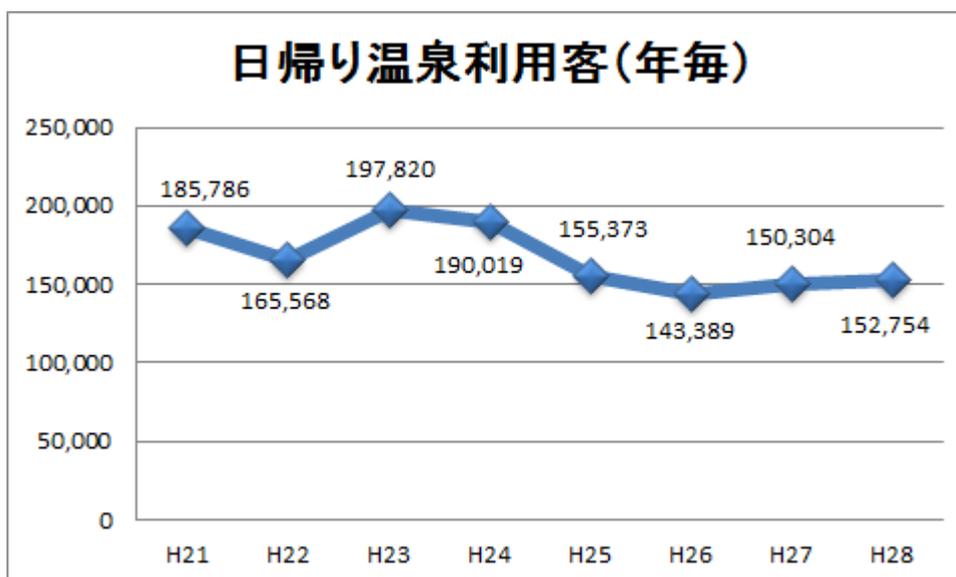
(6) 資料館入場者数(月別)

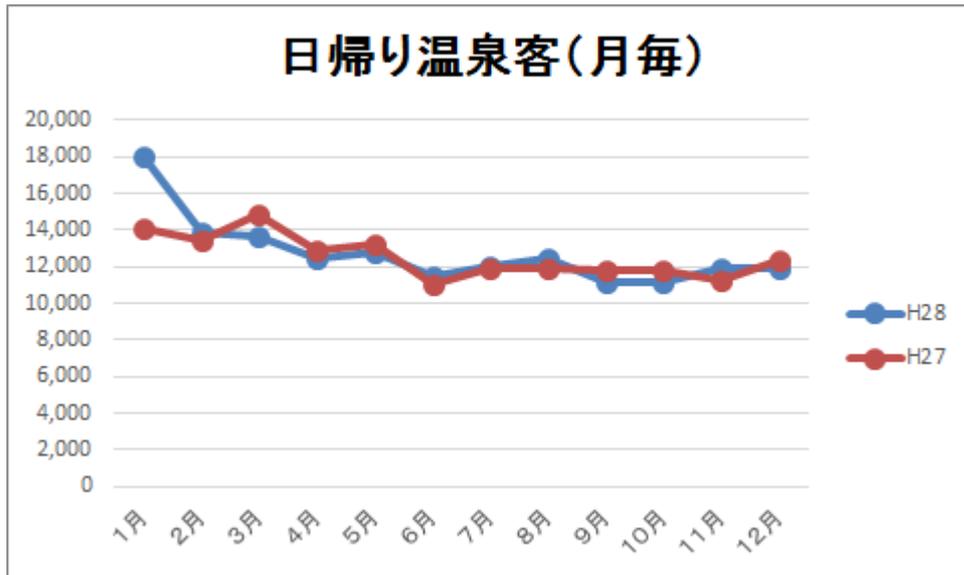
資料館別に入場者数をみると、立花家史料館が最も入場者数が多く、次いで白秋生家、旧戸島家住宅、柳川古文書館の順となっている。北原白秋生家の来館者は、無料で旧戸島家住宅に入場できるが、年間入場者数は北原白秋生家約5万人に対して旧戸島家住宅が7千人となっている。



(7) 日帰り温泉

日帰り温泉客は、約15万2千人であり、平成27年と比べると約2千人増えている。こちらは、熊本地震の影響を感じられない結果となった。

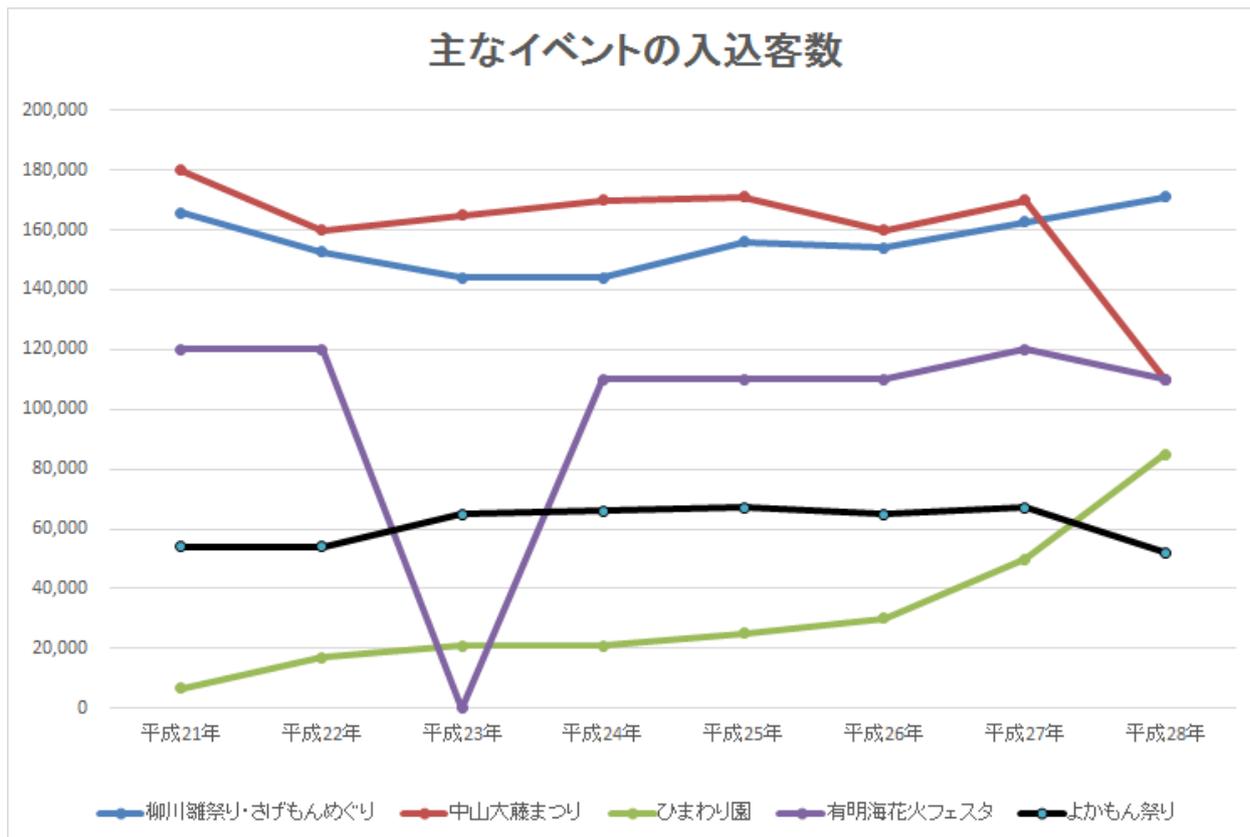




7. 主なイベントの入込客数

主なイベントの入込客数は主催者発表によると、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」約17万人、「中山大藤まつり」は熊本地震の影響からか約11万人と前年比6万人の減少となっている。

「ひまわり園」は、満開となった7月下旬には道路が渋滞するほどの人出でにぎわった。乗用車で県外ナンバーも多く見られ、新しい若年層の取り込みと外国人観光客の増加が要因と推測される。「よかもんまつり」は、「全国豊かな海づくり大会」のプレイベントと同時開催ということで、「有明地域観光物産公園」から「学童農園むつごろうランド」で実施したが、雨の影響もあって来場者が伸び悩んだ。



8. 外国人観光客

外国人観光客は、約12万4千人で、平成27年と比べて約2万5千人減少。初めて減少したが、熊本地震の影響と考えられる。国別にみると台湾、韓国、香港などのアジアからの観光客が大半を占めている。

九州の外国人入国者数は、九州運輸局が発表している2016年年計で、約372万人と前年比31.4%増加している。国別にみると、韓国、台湾、中国、香港とアジアが中心。

また、福岡空港、博多港から入国した外国人が5年連続で過去最高の約257万人で、前年比約24%の伸びがあった。

九州全体では「九州ふっこう割」や日本政府観光局によるプロモーションなどもあって伸びたが、柳川市は前年を上回るまでにいたらなかったものの、10万人を超える結果となった。

